名寄市立大学の窓から～知への誘い～

vol.8

「家族ってなに？」

保健福祉学部社会福祉学科　教授　小野寺 理佳

私が大学で担当する一つに「家族社会学」という科目があります。例年、その講義の1回目は、家族をめぐるいくつかの問いかけをすることから始めています。「あなたにとっての家族とは誰のこと？」「なぜその人は家族なの？」「その人はいつから家族なの？」「その人はこれからもずっと家族なの？」「ひとはなぜ家族をつくるの？」「家族がいないと不幸せなの？」「家族って、やめられるの？」他にもありますが、大体こんなところです。これらの質問はいずれも、家族の定義、つまり、家族とはどういう人々のことをいうのか、ということに関する考え方を訊ねるものです。

では、学生はどのように答えるのでしょうか。そこにあらわれる家族のイメージはかなり共通しています。家族とは、両親と子どもからなる小さな集団で、心の絆で結ばれ、自分を支えてくれ、自分のすべてを受け容れてくれる存在、としてとらえられています。しかし、これらの答えの一つひとつをみていくと、そこには、学生個々の家族観や家族規範が表れていることに気付きます。法律婚こそ正式なもので同棲はそうではないのか。パートナー関係の重みは子どもの存在や年月の長さで計れるか。愛情の有無と戸籍とどちらが重要か。血縁はどこまで大事か。同居のもつ意味とは何か。家族にとってコミュニケーションのもつ意味とは何か。

家族を規定する条件は様々です。家族の社会的定義（社会のなかで主流とされている定義）は先行的に存在しますが、個人的定義はその変形であり、個人的定義の多様性は当事者の置かれている状況によって産み出されると考えるべきでしょう。同じ個人が、同一の対象について、あるときはそれを「家族」といい、また別のあるときはそれを「家族」とは言わないといったことは十分にありうることです。個人は自分が置かれている状況の関与を免れることはできないからです。そして、誰でも自分の家族が満足すべきものであってほしいと願っています。家族の条件が先にあるのではなく、自分にとっての家族を正当化するのに適した条件を後から考える、というのが正直なところではないでしょうか。

学生の多くにとって、家族といえば、まず親やきょうだいであり、なかでも親は、自分に必要なものを与えてくれるかけがえのない存在として語られます。家族をそのように語れるひとは幸せといえるでしょう。けれども、なかには、自分の家族を素晴らしいものとして語ることに苦しさを感じるひとや、自分の家族が社会的定義から「逸脱」していると考えて、そのことを辛く思っているひとがいるかもしれません。

ですから、講義では、多様な家族があること、家族は多様であってよいこと、家族をめぐる感情もまた多様であり、多様であってかまわないことを、結婚、子どもの誕生、介護などの具体的な事柄に関わらせながら考えていきます。彼らが将来ケアの専門職者として対象者と向き合ったとき、対象者が営む家族関係をどれだけやわらかく受けとめることができるか。そのためには、学生一人ひとりが自身の家族の定義を見つめ直すところからはじめなければならないと考えています。

（次号（親子ってなに？））

図書館的話題・サイエンスカフェ

サイエンスカフェって？これは研究者のお話を気楽に聞きましょう、という企画です。講演会というときちんと座ってお話を聞くといったイメージですが、こちらはコーヒーなど飲みながらリラックスした雰囲気の中で、講演者からの話題提供をもとに参加されている方との意見交換なども交えて理解を深めるというものです。

本学では学内で数回行ってきましたが、このたび大学祭に合わせて「からだの健康だけでは乗り越えられない現代社会に向き合うための『生きる力』を考える」をテーマに市民の皆さま向けに開催します。

サイエンスカフェin名大祭

看護学科の長谷川先生による「健康観の転換～生きる力はどこから湧いてくるのか！～」と題した講演を聞き意見交換を行います。どうぞお気軽にお立ち寄りください。

■と　き　7月13日(土) 15:00～

■ところ　大学新館２階・学生ラウンジ

入場無料・申し込み不要です。

●詳しくは名寄市立大学図書館のホームページまたはフェイスブックでご確認ください。

（大学ホームページ＞付属機関＞図書館）

●問い合わせ：名寄市立大学 ☎01654②4194(代表)